

多摩市みどりと環境基本計画の実現にむけて

多摩・生活者ネットワーク市議会議員 向井かおり



私たちの暮らしは土や木、草による住まいに始まり、食糧、衣料、葉にいたるまで様々な動植物、菌類に支えられています。一方、農業など人間の営みもそれら生物の生息環境を守ってきたといえます。生物多様性条約第11回締結国会議（COP11）（10月8日～19日までインドのハイデラバードで開催）に向け、政府は2015年までの行動計画を合わせた戦略の見直しを進めてきました。

東京都も「緑施策の新展開」生物多様性の保全に向けた基本戦略」を発表しましたが、地域での実践を担う多摩市の姿勢こそ問われます。30年計画の10年を経て改訂された「多摩市みどりと環境基本計画」の展開について質問しました。

実態の変化を的確に捉えることからスタート

環境部のあった約10年前には動植物の実態調査や水循環の調査を行っていましたが、その後の変化を問うと「調査したことがない」との答弁。基本計画改訂にあたって、今後の協

力を期待できる各種環境団体との協働を深めるべきだったと指摘今後「実態を知るため生きものデータベースづくりを市民と行う」との答弁が返ってきました。

環境部設置への期待と今後

開発への指導は都市計画課が行っていますが、生息環境保全の視点での指導も必要との問いには今後「必要な場合には環境政策部として指導する」との答弁。水の循環や暗渠化は特に影響が大きいいため、保全すべきと定めたエリア内だけでも予め調査し指導強化する必要があります。来年春、復活する環境部には多いに期待を寄せるものです。

また、グリーンライフセンターを生物多様性確保の啓発や情報共有、発信の拠点としては、との問いには、HPのリンク程度の消極的答弁で終わりました。なぜ多様性が必要なのか：市民とともに学び、開発や公園管理、下水道管理などに具体的に反映させるためにも、多摩市としての戦略をもって計画的に進めることが不可欠です。

みどりのルネッサンスについて

多摩・生活者ネットワーク市議会議員 星野なおこ



多摩市では、地域でみどりの保全・維持管理に取り組んでいく団体や、みどりにかわわっている方々が増えました。みどりは自然とのふれあいの場だけでなく、生物多様性の確保や子育て、防災など、人々の生活に密着し、地域のまちづくりを考えるうえで大きな役割があることを私たち市民が気づくことが大切です。

市民と共に緑の点検

今後3年間で、市民がみどりにかわかることで、市民間の交流機会が拡大されます。さらにそのネットワークをもとに、地域のまちづくりや課題を、自分たちで解決していきけるようなコミュニケーションを醸成していきます。

計画都市多摩ニュータウンでは、みどりが溢れる環境を残すため、街路樹や公園・緑地の配置、法面への植栽などを積極的に行ってきました。しかし、みどりを維持管理していくためには、莫大な労力と予算が必要になることは言うまでもありません。また、みどり豊かなまちとなつて

いる一方、約40年が経過し、成長したみどりが夜間の歩行に不安を与えたり、見通しが悪く危険な箇所を生み出したりと、防犯上や交通安全面での調和も必要となってきました。

防災や景観なども含め、地域特性を勘案し、みどりの育成管理を点検していく必要があります。

行政はコーディネータに！

公園緑地の育成管理については、地域住民やボランティアなどから公園や緑地のあり方について提案をいただき、植栽の更新や施設の新たな活用方策を実現していく方向性です。

しかし樹木に詳しい地域住民ばかりではありません。行政は市民と市民をつなぐコーディネーターとしての役割を担う必要があります。

将来的な管理経費削減や、剪定枝を活用したみどりのリサイクル推進も、今後の多摩市のまちづくりには欠かせない課題であると指摘しました。

メッセージ

江川美穂子（多摩市循環型エネルギー協議会理事）

30周年、おめでとうございます。

「政治への市民参加」の手引きをしてもらって、94年に初めて市議会で陳情をしたのが最初の出会でした。それからの長い年月の中、いろいろと活動を共にする場面がありましたが、今年の新発都民投票の運動では、多摩市の事務局を担う頼もしい活動振りに接することができました。これからも、地域に根ざしてがんばってください。

菊池富美男（前市議会議員）

多摩・生活者ネットワークが設立30周年を迎えられた事に心からお祝いを申し上げます。新井美沙子さん（故）と原田恭子さんの2人の議員が出現したことは私にとっても心強い仲間が誕生したことになりました。市議会で、ネットの二人と住田啓子さんとで会派を組みました。市民感覚の視点から、議会改革をするにあたって4人で納得がいくまで議論を交わしました。市長が提案した予算や議案に賛成反対するだけでなく議員の権能を高め、議会を改革する手法として問題点を明らかにした修正案を作成し提案しました。多摩・生活者ネットワークの地方政治への30年間の活動は地方議会活性化の礎を築いてきた活動であります。心から敬意を表します。

八木智弘（政策ゼミ参加者）

多摩・生活者ネットワークの皆様、30周年おめでとうございます。政策ゼミ生として活動させていただいた4年間で、「政治」は遠い世界の出来事ではなく、自らの生活の一つ一つに関わっており、一人一人の行動で変えられるという、本来当たり前なのに見えなくなってしまっている新鮮な感動を体験できました。今後も多摩ネットが、「生活に身近な政治」を伝え、行動する主体であり続けることを願っております。



政策ゼミ。ワークショップで一般質問のテーマ決め

生活のまち・暮らしやすいまちをめざして

多摩・生活者ネットワークの30年



議論する
政策ゼミの中間発表会。学生とともにテーマを決め調査。市への提案を実現させるよう一般質問を組み立てる



体験する
誰もが使いやすい駅になるよう、バリアチェック。鉄道会社や市に提案



観察する
子どもたちと大栗川の生き物調査



提案する
八王子市、調布市、府中市などの近隣ネットメンバーと一緒に町田市のバイオトイレの視察



測る
井戸調査



でかける
山梨県都留市へ小水力発電視察



調べる
川の水質調査

全国では116の自治体に市民ネットワーク運動が広がっています。東京の生活者ネットワークは都内33の自治体にあります。それぞれの地域の課題に取り組みと同時に市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組み、ローカルパーティーとして東京を「生活のまち・暮らしやすいまち」にするために活動しています。

現在、区議会市議会に50名、都議会に3名の議員を送り出し、来年7月に予定されている都議会議員選挙では倍増の6名を当選させるために活動を準備中です。



調べる
高次脳機能障害の方々が作業する新宿ジョイント。作業場は近所のビルの一室を無償で借りている



見る
「おだ認定こども園」を見学。ゆったりとした保育スペース

「私の好きな多摩市の風景」アンケート

1. あなたの好きな多摩市の風景を教えてください。

その理由

- *この結果をもとに多摩ネット 30 周年を記念して多摩 20 選を選考し発表します。
2. 市政・都政に関するご意見ご要望ございましたら、お書きください。

この結果を知りたい人、イベント参加希望の方は連絡先を表面にご記入ください。

決算と予算の連動をめざす

多摩市議会では、「多摩市議会基本条例」第9条の「決算と予算の連動」をめざすため、本年度から、決算審査と予算審査までを連動させた「予算決算特別委員会」を設置しました。

予算決算特別委員会の全体的な流れに関しては、委員長・副委員長、他4名の議員で構成される予算決算特別委員会理事會の中で議論し、決定しました。

議長を除く全議員で構成された同特別委員会では、決算審査を行いました。審査は9月19日から27日までの7日間、その中の9月20日・21日・24日（予備日も使用）では、4つの分科会で集中審査事業の評価を行いました。

今までは、集中審査事業評価は各会派で行っていましたが、会派ごとの異なる評価では、来年度予算編成に反映することが難しい、との市側の判断がありました。そこで本年度は、常任委員会を単位とした4つの分科会を設置し、各分科会それぞれ2事業ずつ計8つの集中審査事業について評価を行いました。

超党派の議員が議論することにより、

8つの集中審査事業に関しては、議会の評価として市長に示すことができました。

「多摩市議会基本条例」第9条3項には、「市長は、議会の評価を予算に十分に反映させるよう努めなければならない。」とあります。

議会の評価が予算に反映されるよう、2013（平成25）年度予算確定まで、予算決算特別委員会として進めていきます。

初めての試みでまだ課題もあります。が、今後も、予算と決算の一体的な審査だけでなく、機能強化に向けた議会改革に取り組んでいきます。

（星野なおこ）